

リーダーとして

論語のように

生きるには

徳を備えた人になるための
実践書『弟子規』

車文宜・手計仁志

CHE WENYI

HISASHI TEBAKA

はじめに

「当たり前だけど、ぜんぶできたらすごいこと」

そんな触れ込みとともに、私は、今回の共著者でもある車文宜さんとのご縁から『弟子規』という伝統的な東洋教材を知ることになりました。これは、今から300年ほど前に中国が清の時代に編纂された、日常生活の「規範」について説いている儒学の基礎的な教材です。私はこの『弟子規』を学ぶうちに、不確実で不透明な現代社会において、何を重視し何に従って生きていくべきか、さまざまな選択肢に対する判断基準が明確になりました。

私はパーソナルビジネスコーチという仕事をしています。この仕事を通じて、企業や組織でメンバーを率いるビジネスリーダーとのさまざまな対話を通じて、彼らの目標達成を支援しています。そんな日々の中で、本来は組織の中でもっと輝くべきリーダーの皆さんが、実はさまざまな悩みや未来への不安を抱え、疲弊している、という

ケースにとっても多く出会います。さらには、一般的には周囲から「成功者」と思われている方々にも、「もっと、もっと」という欠乏感をお持ちの方が多くのように思います。自己実現してもなお消えない欠乏感、いったいどこから来るのでしょうか。「幸せはお金では買えない」とはよく言われますが、何があつたら幸せといえるのでしょうか。

そして車さんもパーソナルビジネスコーチであり、私自身のコーチでもあります。ある日私は車さんとのコーチングの対話の中で、「あなたは何をするためにこの世の中に来たのですか？」という問いを受けました。それは、これまでに受けたことのない深い問いであり、私は思わず「うっ」と唸ってしまいました。しかしこの問いに対して『弟子規』というフィルターを通して向き合ってみると、不思議と肩の荷が下りたことを覚えていきます。『弟子規』を学ぶことで、社会にとつて善いことと悪いことの基準が理解できるようになり、その基準に則ると、自分の「やるべきこと」ことが明確に見えてきます。

日本では、『弟子規』の存在はまだほとんど知られていません。中国でも1000〜2000年くらい前までは一般的な児童教本として使われていたものの、戦争の影響な

どもあり、以降、長らく教育現場から遠ざかっていました。しかし最近になって改めてその価値が見直され、企業、政府機関、学校、ひいては幼稚園などでも教本として導入され始めているようです。

経済成長を謳歌している中国社会は、この20年間で大きく変わりました。いま上海や深圳辺りの若きビジネスパーソンは、全てをスマホでこなし、海外旅行を繰り返し、いま世界で恐らくもっともノリノリな人々でしょう。しかし、前だけを見て激烈な競争社会を生き抜いてきた結果、少なからず疲弊し、大切なものを後ろに置いてきてしまっているようにも見えます。上海のきらびやかな夜景を見るたびに、その陰で不利益を被っている人が何十倍もいることもまた強く感じました。

いまこのタイミングで『弟子規』の教えが中国各地で見直されているのは、このような社会情勢と無縁ではないと考えていますし、今回私が『弟子規』を日本の皆さんにも紹介したいという想いに至った経緯でもあります。

私は、この『弟子規』が現代社会にも十分通じる不変的なOS（オペレーション・シ

STEM)になりうると考えています。不易流行、激動の時代においても原理原則は変わりません。300年前の埃を少しばかり払い落せば、この教えは時空を越えて、今なお皆さんの心の拠りどころとなりうると信じています。価値観の多様化する部下を抱えて悩むビジネスリーダーだけではなく、学校で子供たちを預かる教育者の方々や、子育てに奮闘するパパママにも、このOSを備えていただく効果があると考えています。

新たな一歩を踏み出したい、次世代を創る若い部下や子供たちに良い影響を与えたい、と一人でも多くの方々に感じていただければと考え、車さんとともに本書の執筆をすることに至りました。

とはいえ、本書は、皆さんの悩みや戸惑いに対して特効薬を与えるような内容にはなっていません。その理由は2つです。

第一に、人それぞれに因果応報の自然法則があり、本書を読んで同じことを実践しても同じ結果を得られるとは限らないことです。人それぞれ受け取り方が違ったり、取り囲む環境が違うため、当然結果も異なります。

第二に、智慧というのは与られるものではなく、どんな人でも「事上磨練(頭の中で

理解するだけではなく実際に物事に当たり、何度も練習して切磋琢磨すること」によってのみ身につけることができるということです。自分自身の因果を理解しながら、身を起こることに、やろうとしていることを色々と実践してみた結果、初めて智慧を得ることができます。

私たちは2人ともパーソナルビジネスコーチです。コーチングには、答えは皆さんそれぞれの中に必ずあると信じ、対話や質問を通じて皆さん自身の目標達成に向けて行動を促していく機能があります。より大きな成功に近づくために、皆さんそれぞれの「道標」を見つける参考として読んでいただければ幸いです。

「何をするためにこの世の中に来たのですか？」冒頭の問いに対する私自身の答えの一つは、本書を出版して、皆さんの迷いや悩みを振り払い、皆さんの目標達成に向けた行動を支援することだ、との思いに至りました。恐らく皆さんの心の奥底にも、皆さんそれぞれの答えがきつとあるはずです。本書を片手に、それを一緒に引き出してみませんか？

手計仁志

リーダーとして

論語のように

生きるには

目次

はじめに

.....
002

序章

不変的な規範と秩序

自分が本当にやるべきことは
見つかるのか？

.....
006

欧米で注目を集める東洋哲学的アプローチ
本書の構成

『弟子規』を知る

1章

『論語』から生まれた

『弟子規』

幼稚園の教材が
ビジネス界を救う

column

中国の家族文化に触れて

032 025

2章

『弟子規』全文

035

道徳の真意

3章

学習の本質

学習は習慣化し習得すること 134
なぜ学ぶのか—Why? 138

「煩惱」をそぎ落として「本性」に戻る
「煩惱」をそぎ落とすために「本分」を探求する

何を学ぶのか—What? 144

どのように学ぶのか—How? 145

『弟子規』を学習する 148

column

社会と調和するリーダーの一念 151

道徳の真意

4章

道徳と『弟子規』

道徳とは

道＝宇宙万物の法則

徳＝道を見出し、従うこと

『弟子規』を實踐し、徳を備えたリーダーになる

155

『弟子規』孝弟

『弟子規』謹信

『弟子規』愛衆

『弟子規』親仁

『弟子規』學文

上善如水

168

179

182

186

190

193

道徳の真意

column

智慧と知恵の違い

195

5章

「本分」を知る

一生をかけて見つける「本分」

199

身の回りが整うと心も静まる

あなたの念とあなたの属する社会はつながっている

自分の本分を知り、自分の人生を過ごす

他者という資源を最大活用する

複雑化する社会だからこそ

パーソナルブランディング

209

あなたと接することのメリットは？

道徳の真意

人間関係構築力

他者との関係の中で自分の位置を知る

口は災いのもと、の真意

500年前のシェアリングエコノミー

ポジシヨンしかない人がポジシヨンパワーを使う

215

自己認識力

あなたの資質に気づき、正しく使う

自分を省みる、そのためのフィードバック

222

column

道↓徳↓仁↓義↓礼↓智↓信↓法を
元に戻してゆく

229

因果縁

6章

因果縁

因果応報

自然の理法Ⅱ「因果」

234

縁起と因果

「因」に価値をつける

国の名前に「因果縁」？

善い因をつくり、いまこの縁をとらえる

237

column

「良し」と「善し」の違い

245

7章

修善

良い結果を得るための行動

慎ましく自分を愛する、過ちは懺悔する

他者を通じて自分を修善する

248

因果

8章

戒定慧

善悪の基準とは？…………… 255

古典に学ぶ最高の修善方法…………… 258

— 修善をやりきる3つの心構えと3段階の行動

自分を見失う10個の余計なこと…………… 270

智慧の本質

經典に学び、徳を備えた
リーダーになる…………… 276

column 故事の誤解…………… 279

おわりに…………… 282